

息子のアパート アスベスト事情

昨年の秋、大学に通う息子を訪ねてT県に行ったときの事です。アパートの外廊下の天井に穴があいています。よく見ると、天井板が水を含んでふやけたように垂れ下がり、ポロポロに傷んでいます。私には、すぐにそれが石綿スレート板(平成16年9月製造まで含有)であることがわかりました。常時アスベストを飛散している吹付け材と違い、スレート板などの成型板は破壊しない限りアスベストの飛散はないとされています。しかし劣化の進んだものは、吹付け材と同じように飛散することが分かっています。

大家さんに、私はアスベスト診断の専門家であることを説明し、アパートのアスベスト診断を申し出ました。調査の結果、廊下の天井にアスベストが含まれており、劣化が進み危険な状態にあることが判りました。さらに、押入の天井点検口から屋根裏をのぞくと、内部の鉄骨には耐火被覆材として吹付け材が使われていました。

大家さんに報告をすると、「知り合いの業者から大丈夫だと言われたんだぞ!」と気色ばんでいます。そのうち学生数人に取り囲まれ、我々は質問責めです。学生の母親まで出てきて、ヒステリックに詰め寄ります。吊るし上げを食った大家さんは、「ちゃんと対応しますから」ということで、その場を治めました。しかし、そのあと驚いたことに、大家さんは、「アスベストはなかったことにするから」と

診断結果を黙殺するのですでした。

この春、息子はじめ五人の学生が大家さんへの不信感から、そのアパートを出る準備をしています。採取してきた吹付け材は、専門機関の分析の結果、アスベストが含まれていました。残念ながら、アパートはあのとこのままです。

先日も、会社の近くで住宅を解体していました。何の対策もせずに、石綿スレート板やアスベスト成型板が破壊されています。作業員はアスベストにまみれ、家に帰れば洗濯機の前で奥さんがそのアスベストに吸うこととなります。飛散する現場のそばを、学校帰りの子供たちが歩いています。

過去に日本が輸入したアスベストの総数は988万トン。その九割が建材として使われたのですから、凄まじい量のアスベストが存在していることとなります。アスベスト問題は、日本にとって現在も起き、近い将来も起き、そして遠い将来まで起き続けるという、ゴールの見えない社会問題といえるのです。

*

アスベスト不安に朗報です。住宅やアパートなどの売買・賃貸契約を結ぶ前に、不動産業者はアスベストの使用状況を消費者に説明することを義務付ける法案が、今年の通常国会で成立する見込みです。

良心的な大家さんや不動産屋さんの多くが、すでに昨年秋頃からアスベスト診断を始めています。